4. 検討会の開催

4.1　検討会の名称

令和５年度　伊根町再エネ活用型地域振興策検討会

4.2　検討会の開催目的

本町における再エネ活用型地域振興策の実現可能性の検討を行うため、「令和５年度　伊根町再エネ活用型地域振興策検討会」を設置し、以下の各事項について、検討会委員の助言を得ながら、その実現化に向けた検討を行うことを目的とした。

１）再エネ活用型 EV 充電設備の効果検証
２）地域の更なる再エネ電源開発及び自家消費率を高める手法の検討
３）上記のほか検討のために必要な事項

4.3　委員の選定

検討会の委員を表 4-1 に示す。

表 4-1　委員名簿

委員区分	氏名（敬称略）	所属・役職	役職
有識者	佐藤　充※1	福知山公立大学　地域経営学部	准教授
商工	亀井　徹	伊根町商工会	総括主事
観光	吉田　晃彦	一般社団法人　京都府北部地域連携都市圏振興社 伊根地域本部	事務局長
住民	倉野　正彦	伊根地区区長協議会	会長
住民	岡﨑　幸雄	朝妻地区区長協議会	会長
住民	三野　平史郎	本庄地区区長協議会	会長
住民	加納　宏樹	筒川地区区長協議会	会長
社会福祉	佐藤　龍平※2	伊根町社会福祉協議会	事務局長
社会福祉	矢野　智樹※2	伊根町社会福祉協議会	事務局長
検討主体	吉本　秀樹	伊根町	町長

※1.座長
※2.佐藤事務局長退任のため、第３回から矢野事務局長に交代

4.4　検討会の開催概要

検討会は、計３回開催した。

検討会の開催概要を表 4-2～表 4-4 に示す。また、検討会での指摘事項をまとめた議事要旨を表 4-5～表 4-7 に示す。

表 4-2　第１回検討会の開催概要

日　　時	令和５年８月 30 日 19 時 30 分～20 時 30 分
場　　所	伊根町コミュニティセンターほっと館
出席人数	出席 17 名（うち Web 参加３名）、欠席１名
議　　題	（１）昨年度のまでの振り返りと今年度の実施内容について （２）本検討会での論点について （３）意見交換

表 4-3　第２回検討会の開催概要

日　　時	令和５年 11 月 17 日 13 時 30 分～15 時 00 分
場　　所	伊根町コミュニティセンターほっと館
出席人数	出席 16 名（うち Web 参加１名）、欠席４名
議　　題	（１）第１回検討会での指摘事項 （２）再エネ活用型 EV 充電設備の効果検証 （３）太鼓山での風力発電以外の再エネ活用の可能性 （４）意見交換

表 4-4　第３回検討会の開催概要

日　　時	令和６年２月 14 日 10 時 00 分～12 時 00 分
場　　所	伊根町コミュニティセンターほっと館
出席人数	出席 19 名（うち Web 参加４名）、欠席２名
議　　題	（１）第２回検討会での指摘事項と振り返り （２）再エネ活用型 EV 充電設備の効果検証 （３）地域の更なる再エネ電源開発及び公共残土処分場での検討 （４）意見交換

表 4-5　第１回検討会の議事要旨

（建設残土処分場について）

- 伊根町公共残土処分場について、いっぱいになる目処が立ってきている。地域整備課が担当しているので、十分調整をとりながら、検討を進めてほしい。

（再エネ利用について）

- 遊休農地がいっぱいある。そういうところが活用できれば太鼓山でなくてもよいのではないか。
- 将来像の Step2 で、作った電気を地域にばらまいていくということになると、送電設備にコストがかかると思う。小さい過疎地でこういうことをやっても、それだけのメリットが見いだせるのか。
- 個人レベルだと、屋根の上にソーラーが立ってそれで１軒の電気代が安くなるなら、すごいいいことだと思う。
- 海が何か使えないか、可能性がないかとか、いろんなことを教えてもらえたらありがたい。

（災害時の電源利用について）

- よく停電もする地区なので、有事のときにこういったエネルギーを活用した避難施設を充実させるとか、そんな検討もしていただけたらと思う。
- 停電があっても伊根町はバックアップ電源があるので、蓄電池ですぐ復旧でき、それが災害時にもできるというような、電気に強いまちづくりもあるとよい。

（電気自動車の利用について）

- 以前、町の公用車を電気自動車に変えられたらいいという意見があったが、これにプラスして、町内で町民の方に対してサービスを行っている車両等についても EV 化できるように、補助金の設置等ができるといい。
- いねタクを広く考えて、移動についても電気で動けるようなまちづくりもあるとよい。

（その他）

- 観光庁の事業に採択され、伊根マグロの流通の検討が進んでいる。農林水産漁業の検討は追ってとのことだったが、伊根マグロの流通をすることがあれば、こういった事業とコラボして取り組んで検討していただけたらと思う。
- 議論を進めるにあたって、地域において今まさに取り組んでいるような課題や町で取り組んでいる様々な施策の情報も共有しながら、こういう形での利活用ができないかという議論ができればと思う。

表 4-6　第２回検討会の議事要旨

（乗客アンケートについて）

- 住民の多い地域の方（の回答割合）が多くなっているのではないか。観光客の利用も近隣の大阪とか京都市内の方は車でいらっしゃることが多いので、関東の方の利用が増えているのだと思う。

（いねタクの運行について）

- 希望どおりで乗車が出来ない人が多くなってきた場合に、タクシーをどのくらい回さないといけないということを見極めるのがなかなか難しい。ご意見をお伺いしたい。
  - アンケートのなかで４人のうちの１人は希望どおり乗れていないとあった。利用者が増えてきたときにスムーズに運行できるのかはちょっと心配している。
  - 利用者が増えてきて利用中に電池がなくなると、急速充電も１回 30 分ではフル充電できないので、ますます利用者が利用できない状況になってくるのではないか。早めにリーフか何かを予備の車として買っておいてはどうか。
  - 満充電で大体 140km 走れて、蒲入を２往復したら無理みたいなことを聞いた。町内を走り回るとキロ数も増えるので、予備の車両を置くというのは必要と思う。
  - 観光客の利用でいうと、平日も土日も夜間６時から９時の宿泊施設から飲食店への利用が確実に多い。今１台で運行しているが、これを２台にする方が負担が少なく拡充できると思う。
- いねタクは町外へ行けない。痒いところに手が届いていないのではないか。
- 利用料金の満足度を見たときに、住民の方 4.31 で観光客の方が 4.70 と差が出ている。観光客の方の料金をもう少し値上げしてもいいのではないか。価格に差はつけられないか。
  - 制度的に差を設けることができないため、それをカバーする施策として回数券と思っている。

（大規模太陽光発電について）

- 太鼓山風力発電所跡地の太陽光パネルの検討のなかに、管理する費用や体制もいるのではないか。
- ここにパネルを設置するとなると、２m近い雪が降り、雪が積もってしまえばほとんど発電しないと思うので、雪対策が必要と思う。
- 大きい事業を計画しても伊根町への貢献や見返りがないのであれば、やめたほうがいい。

（将来像の見直しについて）

- いねタクの運行は短期的な視点だが、中長期的な視点で見た時に再エネを発電する地域と、それをどのような形で地域内で利用するのか、供給と需要の両面から考えていく必要がある。
- 雇用を維持・確保していくという点と地域内に住宅を確保できるかというのは密接不可分な課題であり、それに再エネの利活用が間接的に資するようなことがアイデアとして出てくることがあってもいいのかなと思っている。
- 再エネを宿泊事業者等に活用していただきながら、そのプレミアム分を宿泊利用者に負担してもらう持続可能な旅行、観光みたいな形での旅行商品の創生なども考えられる。

表 4-7　第３回検討会の議事要旨

（電力供給スキームについて）

- 電力供給スキームの検討で、オンサイトとオフサイトを絡めるような方式はあるのか。地産地消の意味合いもあって、使い切れない部分について、最終的に伊根町民にオフサイトで売電するということができるといい。
  - 従前のオンサイトは一対一になるが、将来、例えば地域エネルギー会社が入ると、オンサイトより複雑になるが、複数の使うところに供給でき、発電所も１か所ではなくいろんな発電所から供給するということはできる。

（全般）

- 残土処分場での発電を筒川地区コミュニティセンターに直結するような利用ができるか。ライフラインが閉ざされた場合に、地産地消ができるような設備になるのかどうか知りたい。能登半島地震のように、半島・岬の方が孤立状態になったときに、伊根町にそういう発電能力があれば、すごく有利な状況になるのかなという期待がある。
  - （筒川地区コミュニティセンターと残土処分場が）直接繋がっているわけではないので、災害が起きると、ライフラインは閉ざされてしまう。例えばメガソーラーの場所に災害が起きたときだけ充電できる設備を置き、電気自動車で取りに行って運ぶといった使い方はできると思う。このあたりは来年度検討したい。
- 災害時に電気自動車の充電に時間がかかると思うので、４台目を入れる場合は、PHV に変えてはどうか。PHV であれば、電池もあるしエンジンも使える。
  - あくまでいねタクは再エネの電気自動車というコンセプトがある。災害対応を全ていねタクで行わなくてもいいと思っており、今回のご意見は防災の視点でのご意見として賜りたい。
- いねタクの観光利用の点で、海外の方が英語対応していないので利用しづらいという話がある。利用が増えるメリットと導入コストの兼ね合いがあるが、多言語対応はどうなっているか。
  - 開発元の方で多言語対応を令和５年度中に行われると聞いているが、コストと利用度の関係から、伊根町として利用するかどうかの判断をしていきたい。
- 住民、観光客とも利用の多い乗降場所がわかってきたので、いねタクの利用とは別の大型輸送手段を検討してもいいのではないか。運転手不足や増便したときの過労とかも将来的に問題として出てくると思うので、そういうのも町全体として考えながら、運行してもよいと思う。
- 町内の移動手段がいねタクですごく良くなった便利になったとお年寄りからもよく聞くところである。大型のスーパーが伊根町にできるという話もあり、いねタク等も絡めてすごく便利になっていくと思っている。
- 地域振興といった場合には、地域の産業の活性化と経済面ばかりに目がいきがちだが、そこに住んでいる方々の営みをどう守って、より良くしていくかという点において、医療や福祉という観点は絶対不可欠な視点である。そういう観点で移動手段が持続可能な形で運行されることによって、また新たな価値が地域のなかで生まれると素晴らしいことだと思う。